

太田綿打中

太田市新田上田中町

創立10周年を記念して1957年11月に校章とともに制定された。当時、学校職員と親好があった早稲田大学の漢学者、堤十女橘さ

作詞 堤十女橘
作曲 松浦友久

緑あかるき一本銀杏
そびえて高きわれらが母校
ああ若葉の梢大空させば
直く直く伸びゆく力は躍る
いざや努めん手に手をと
りて
力力の綿打中学校
(2番抜粋)

心のふるさと

群馬の校歌物語

中学編 69

大きな銀杏織り込む

んに作詞を依頼。堤さんには作詞にあたり、同校を訪れ、学校の様子や地域の風景を取材し、歌詞に織り込んだ。完成した校歌は同大の男声合唱団「グリークラブ」によってお披露目された。

PTA会長らが枝切りなど世話をしている。校歌としては珍しく4番まであるが、通常は2番までしか歌わない。佐藤好栄校長は「い

歌詞生徒に解説

赴任当時、校歌がないことに驚いた。それだけにできた時は、感慨深かった。作詞者が漢学の先生だったので、歌詞が中学生には難しかった。国語の時間に歌詞を解説した記憶がある。

校歌制定時に国語を担当
正田 菊江さん(89)
太田市新田花香塚町

私と校歌



語の時間に歌詞を解説した記憶がある。